

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-181	15-008	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Drinking on special occasions shows huge increase on people's typical drinking estimates.</p> <p>特別な機会での飲酒は、日常的な飲酒推計量を増加させる</p>		
執筆者		
Mayor S		
掲載誌		
BMJ. 2015 May 21;350:h2805. doi: 10.1136/bmj.h2805.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、日常摂取量、特別な機会		26001388
要 旨		
<p>目的： イギリスのアルコール摂取に関する調査では、休日やお祝いといった特別な機会でのアルコール摂取量が考慮されていない。本研究は、特別な機会でのアルコール摂取量を明らかにすることである。</p> <p>方法： 16歳以上の6,085人を対象に、休日やお祝いといった特別な機会でのアルコール摂取量について調査を行った。</p> <p>結果： 現在アルコールを摂取しているものは、4,604人(75.7%)であった。日常的なアルコール摂取量とアルコール国家売上高の間には41.6%のギャップがあった。日常的なアルコール摂取に、特別な機会でのアルコール摂取を含めると、週当たり0.4ユニットのアルコール摂取が増加することが明らかになった。</p> <p>結論： イギリス政府による飲酒ガイドラインは、休日やお祝いといった特別な機会でのアルコール摂取を省いているため、アルコール摂取量を過小評価しており、国民の飲酒習慣に適合していない。休日と特別な機会に飲むアルコール摂取量を加味することで、より正確にアルコール消費を測定することができ、付随する健康有害性を評価するための全国調査が必要になるだろう。</p>		